

## ディベートの要素を取り入れたグループ討論・発表活動の実践報告

吉 田 由美子

(近畿大学)

### 1. はじめに

本報告は、大学の英語クラスにおいて「ディベートの要素を取り入れたグループ討論・発表活動」を実施し、その教育的効果と学生の変化についてまとめたものである。本活動は論理的思考力、生産的なグループ活動、英語での発信力、即興力の向上を目指し、計5回の授業において実践された。

### 2. 本活動実践の背景

何故ディベート自体の実践ではなく「ディベートの要素を取り入れた活動」としたのかについて説明する前に、ディベートの定義について説明する。『応用言語学辞典』(2008, p.423)ではディベートを以下のように定義している。

「ひとつの論題に対して対立する立場をとる話し手が、聞き手を論理的に説得することを目的として議論を展開する形態のこと。ディベートでは意見の対立を前提とし、争点が理解しやすいように議論を展開すること理想としている。また当事者同士は説得されないことを前提として話しており、説得する対象は聞き手(審判)である。」

中川(2017)は、「ディベートとは一つの論題に対し、賛成側と否定側に別れて意見を述べ、ジャッジを説得する『知的なゲーム』である。自分の意見とは関係なしに、賛成側・否定側に振り分けられる」(p.2)としている。また中川(2017)は、準備型ディベートではなく即興型英語ディベートを強く推薦し、その理由として、即興型英語ディベートでは、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識、プレゼンテーション力、コミュニケーション力が身に付くとしている。一方で英語の授業でディベートを行うには以下の困難な点もある。1) 競技ディベートにはルールがあり、手順通りに進めるには時間の確保が難しいこと(与那覇,2005、Davis,2016)、2) 特にディベートの醍醐味と言われる意見グループ間でのやりとり(Cross examination)では相当な英語力が必要とされること(藤森,2012、与那覇,2005)、3) 選ぶトピックの難しさ(須部,2014)、4) クラス全員の積極的な参加をどう促すか(Marsh,2020)。

そこで、即興型ディベートの要素を取り入れ、かつ上記の困難な点をカバーするグループ討論発表活動を行ってきた。本活動では、意見の対立を前提とし争点が理解しやすいように立論する、自分の意見とは関係なく意見グループが割り当てられる、説得する対象はジャッジである、ジャッジが勝者を決める、トピック、グループの主張(意見)はその場で割り当てられる、という即興型ディベートの利点を踏襲し、以下の点を加えた。1) 意

見グループ及びジャッジグループメンバーはその場で割り当てられる、2) 意見グループは賛成・否定の2つではなく4つの個別の意見のグループとし、ジャッジグループと合わせクラス全員がひとつの活動に参加する、3) 質疑応答のやりとりはジャッジと各意見グループの間のみとし意見グループ間でのやりとりは行わない、4) 1回完結。これを筆者は「Panel Debate」と名付け授業での実践を行なった。

### 3. 実践の目的

この活動では、与えられた意見を理論構築していく過程での論理構成力の育成、多角的な思考を促す生産的なグループワーク活動、ジャッジの質問に答えることによる即興的な応答力、限られた時間の中で行うことによる時間活用能力の向上、回を重ねることで学生が自らの変化を認識することを目的とした。

### 4. 実施概要

- 対象：大学 1-2 年生 (21 名)<sup>1)</sup>、中級レベル
- 授業形式：対面授業、週 1 回
- 実施回数：1 学期全 14 回中 5 回で実施 (1 回あたりの授業時間 100 分)
- 構成、主なルールなど：
 

学生を 5 グループ (意見発表グループ 4、ジャッジグループ 1) に分け、各グループ 4-5 名で構成。

トピック・意見・グループはその場で割り当てられる。

ジャッジは審査ポイントを明示しそれに則り評価する。ジャッジは各グループの発表後に必ず 3 つ以上質問する。質問のうち 1 つは全グループに共通する質問、残りはそれぞれのグループに個別の質問とする。またジャッジは司会進行も行う。

すべての学生がジャッジ役を学期中 1 回経験する。

評価は教員による評価 (ルーブリックを使用し点数化) とジャッジによる評価 (勝者の決定・勝者グループは教員の評価に加点)、出席者全員による評価 (アンケートから多数決でジャッジも含めたすべてのグループからベストグループを決定・ベストグループは教員の評価に加点) の合計で点数化する。
- 時間配分 (合計約 90 分)：
 

教員によるトピック紹介と概要説明 (約 10 分)

各意見グループでグループディスカッション・発表準備 (約 40 分)

(その間にジャッジは審査ポイントと共通の質問を公表、発表グループはグループの意見のポイントを公表)

各グループによる発表とジャッジとの質疑応答 (約 20 分: 1 グループあたり約 5 分)

ジャッジによる協議と勝者グループの発表 (約 10 分)

教員によるフィードバックとアンケート (選択回答式と感想自由記述) 記入 (約 10 分)

### 5. 扱ったトピックとグループの意見

トピックは授業で使用の教科書 Contemporary Topics 1 (Solórzano & Frazier, 2017)

の内容を絡ませた。例えば、教科書の Unit 2 は“A Time to Learn”というタイトルで第 2 言語を習得するにはどういう要素が必要かという内容であったので、Unit 2 を学習した翌週の Panel Debate では、Topic question を Which second language is the most needed in the future? とし、4 つの意見グループの意見は English, Chinese, Spanish, No other language is necessary とした。English の意見グループであれば、English is the most needed second language in the future. という意見を理由や例を挙げて構築し、発表した。表 1 は教科書の Unit 内容とそれを受けて行った 5 回の Panel Debate の Topic Question および意見グループに割り振られた意見の一覧表である。

表 1

教科書の Unit 内容と Panel Debate の Topic Question および意見グループに割り振られた意見

	教科書の Unit と Unit Title	Topic Questions	意見グループ 1	意見グループ 2	意見グループ 3	意見グループ 4
1	2 A Time to Learn	Which second language is the most needed in the future?	English	Chinese	Spanish	No other language is necessary
2	6 Robots	Which job will most likely not be replaced by robots or AI?	HR managers	Magicians	Wedding planners	Police officers
3	8 Genetically Modified Food	Which crop should be grown more in Japan?	Rice	Wheat	Corn	Soy beans
4	10 Shackleton	Which quality would the leader need most for a successful trip to Antarctica?	Bravery	Physical strength	Good communication skills	Knowledge of Antarctica
5	12 Big Data	Which payment method is the best to use in Japan?	Cash	Credit cards	QR codes	Transit IC cards

## 6. 学生の反応（アンケート結果より）

学生の反応について、毎回の「Panel Debate」後に行ったアンケート（選択回答式と感想自由記述）の結果を以下に取り上げる。選択回答式の回答は複数回答とした。各アンケート結果の図中の数字は回答者の人数を表している。

### 6.1 難しかった点

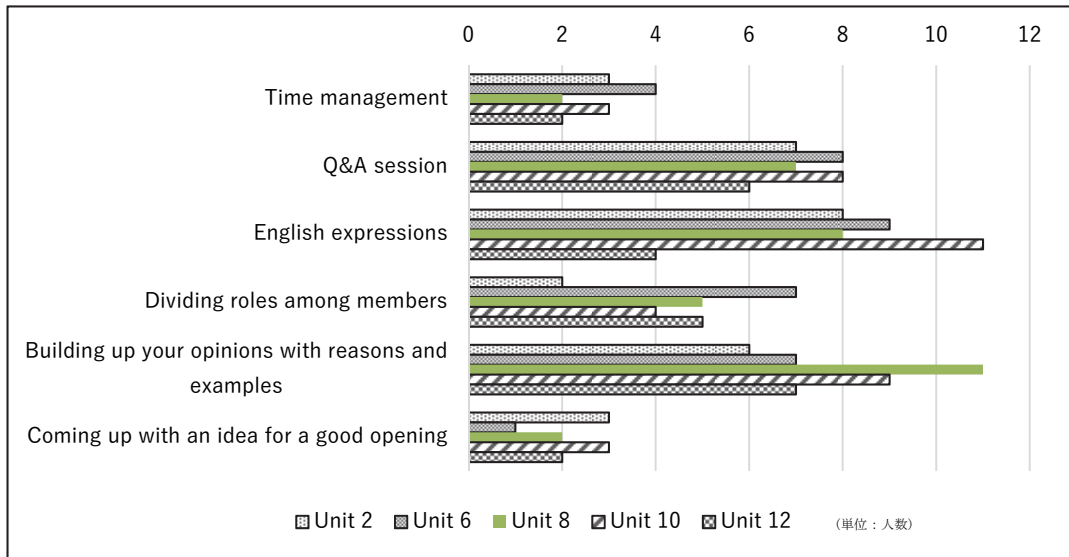
質問 1 は難しかった点について (What was the hard part of the Panel Debate today?) で、回答選択肢は時間管理 (Time management)、質疑応答 (Q&A session)、英語表現 (English expressions)、役割分担 (Dividing roles among members)、理由や例を用いた意見構築 (Building up your opinions with reasons and examples)、良いオープニングのアイデア (Coming up with an idea for a good opening) とした。

アンケート結果（図 1）からは、難しかった点として「英語表現」と「理由や例を用いた意見構築」を挙げる学生が多かったことがわかる。意見構築を難しいと思うかどうかは、その時のトピックと割り当てられた意見の難易度にもより、学生のコメントからも「題材自体についての知識がほとんどないところからの意見構築だったので、教科書の内容をもとにうまく伝わりやすい内容を作り出すのに苦労しました」（Unit 8）や「テーマが考えやすい内容で良かったです」（Unit 12）とトピックによって意見が分かれる傾向があった。

質疑応答はグラフから毎回一定割合の学生が難しく感じていたことがわかる。ジャッジと意見発表グループとの間の質疑応答は、全グループに共通の質問以外は即興で答えるものであるため、その難しさを感じている学生も多かったが、「Q and A ではまだ即座に日本語で答えを考え、英語に変換して話すことに自信が無く、上手く答えられなかったので次の発表では Q and A で自分の意見を言えるようになりたいです」（Unit 2）、「質問に対して意見を構築し、返答するのが難しかった。次はしっかりと答えることができるようにしたい」（Unit 6）のように次はうまく対応したいと前向きに思っているコメントも見られた。

図 1

アンケート結果 質問 1（What was the hard part of the Panel Debate today?）



## 6.2 面白かった点

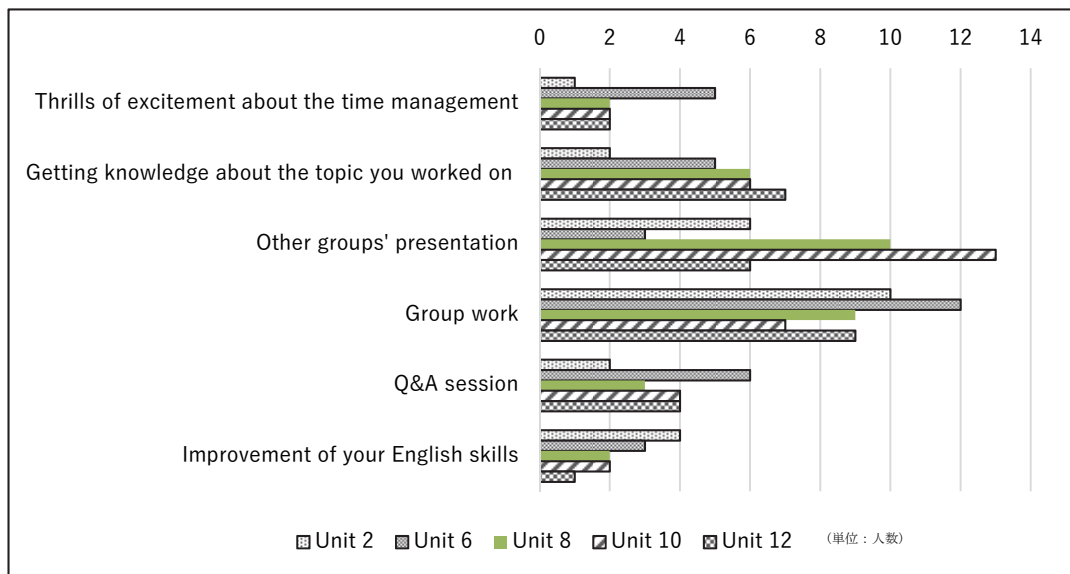
質問 2 は面白かった点について（What was the interesting part of the Panel Debate today?）で、回答選択肢は、時間に追われるハラハラ感（Thrills of excitement about the time management）、トピックについての知識習得（Getting knowledge about the topic you worked on）、他グループの発表（Other groups' presentation）、グループワーク（Group work）、質疑応答（Q&A session）、自身の英語力の伸び（Improvement of your English skills）とした。

アンケート結果（図 2）からは、グループワークの楽しさを取り上げた学生が多く、また他グループの発表を楽しんでいたこともわかる。コメントにも、「グループの人の意見を

活かして意見を構築することもできた」(Unit 8)、「今回のプレゼンは内容が難しく感じましたが、グループのメンバーのおかげで良いプレゼンができたと思います」(Unit 10) といった自分の所属したグループワークについてのものだけでなく、「他のグループの発表もいろいろなものがあって面白かった」(Unit 10)、「ほかのチームを見て学ぶことができました」(Unit 12) など他グループの発表についてのものもあった。

図 2

アンケート結果 質問 2 (What was the interesting part of the Panel Debate today?)



### 6.3 学び (今日のパネルディベートから学んだこと)

質問 3 は今日のパネルディベートから学んだことについて (What did you learn from the Panel Debate today?) で、回答選択肢は、質問への回答をいかにうまく行うか (How to answer questions well)、意見のポイントをいかにうまく説明するか (How to explain your opinion points well)、他グループのアイデア (Ideas from other groups)、役割分担の仕方 (How to divide roles)、時間管理 (Time management)、英語でのプレゼンテーションでいかにうまく話すか (How to speak well at presentation in English)、良いオープニングの重要性 (Importance of a good opening) とした。

図 3

アンケート結果 質問 3 (What did you learn from the Panel Debate today?)

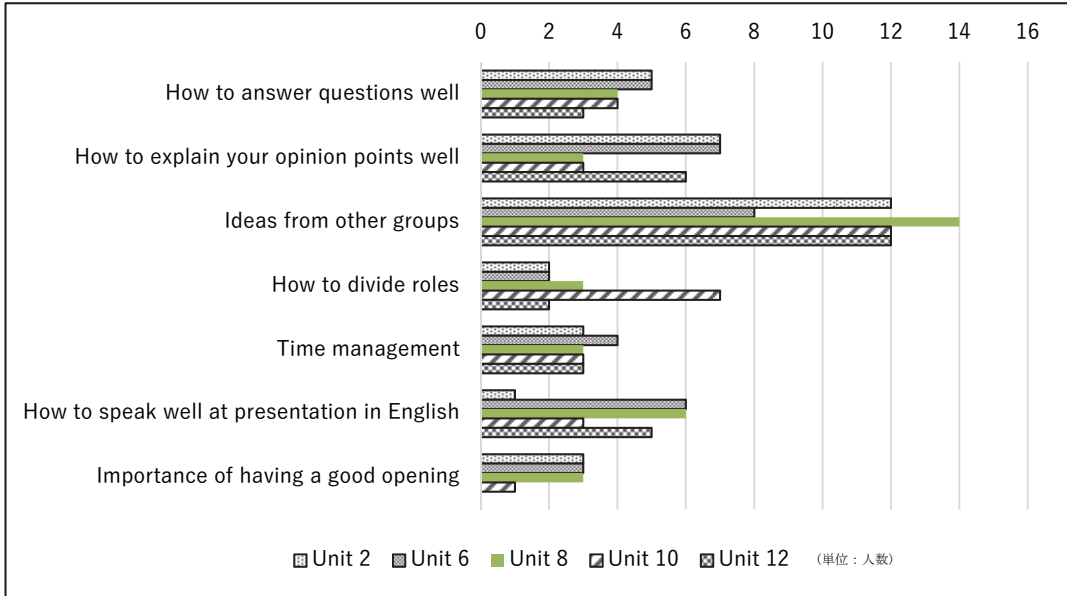


図 3 が示すように、アンケートでは「他グループのアイデア」を学んだと答えた学生が毎回圧倒的に多かった。アンケート内のコメントでも上記 6.2 に記載のものほかに、「ほかのグループのプレゼンと比べて自分の話した内容はかなり薄い内容だったのかなと感じたことが一番の反省点でした」(Unit 8)、「今日は私の班はスキットをやらなかったけれど、ほかの班はやっていて私の班にも取りいれれば良かったなと思いました<sup>2)</sup>」(Unit 10) などのように自グループと他グループを比較したコメントも見られた。また自分たちの「意見のポイントをいかにかうまく説明するか」をあげる学生が多かった。これについても、「これまでは発表のときに早口になりがちだったが、今回は文の間で間をあけるなど、落ち着いて話すことができた。次回はオープニングまで考えられるようにしたい」(Unit 8)、「分かりやすく伝えることも大切になってくるんだなと思った」(Unit 10) というコメントがあった。

6.4 これまでのパネルディベートで学んだことで今日活かしたこと

質問 4 はこれまでのパネルディベートで学んだことで今日活かしたこと (What are the things you learned in the previous Pane Debate and did today?) で、回答選択肢は、質問回答 (Answering questions)、役割分担 (Dividing roles)、時間管理 (Time management)、英語表現 (English Expressions)、スピーキングスキル (Speaking skill)、より良い論理構成 (Better Structure)、ジャッジの仕方 (How to judge) とした。

図 4

アンケート結果 質問 4 (What are the things you learned in the previous Pane Debate and did today?)

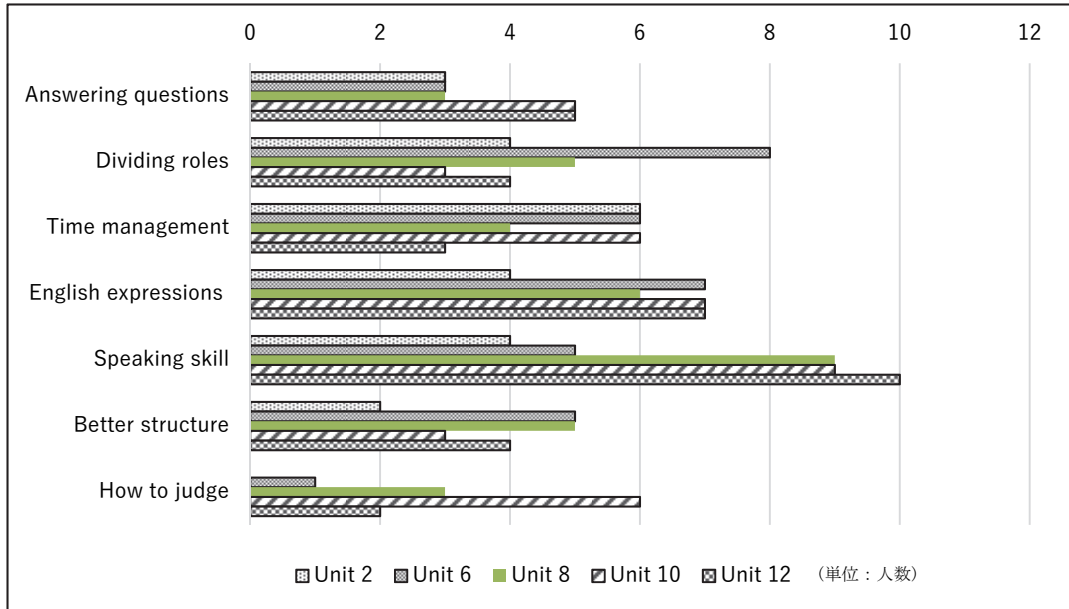


図 4 からは回を重ねるごとにスピーキングスキルへの意識が高まったことがわかる。「前回やったジェスチャーを今までよりも意識することができたのが良かった」(Unit 8) といったコメントに表れているように、用意した原稿を読むだけでなく、非言語コミュニケーションの効果などを次に活かしていたようである。また「今回はいつもよりスムーズに役割を振って台本を作れたのが良かったと思います」(Unit 12) というコメントからも、限られた時間内で時間管理を意識し役割分担を行っていたことがわかる。

### 6.5 次回うまくやりたいこと

質問 5 は次回うまくやりたいこと (What do you want to do better next time?) で、回答選択肢は、質問回答 (Answering questions)、自分たちの意見のポイントの説明 (Explaining your opinion points)、役割分担 (Dividing roles)、時間管理 (Time management)、英語表現 (English Expressions)、スピーキング (Speaking)、より良い論理構成 (Better Structure) とした。

図 5

アンケート結果 質問 5 (What do you want to do better next time?)

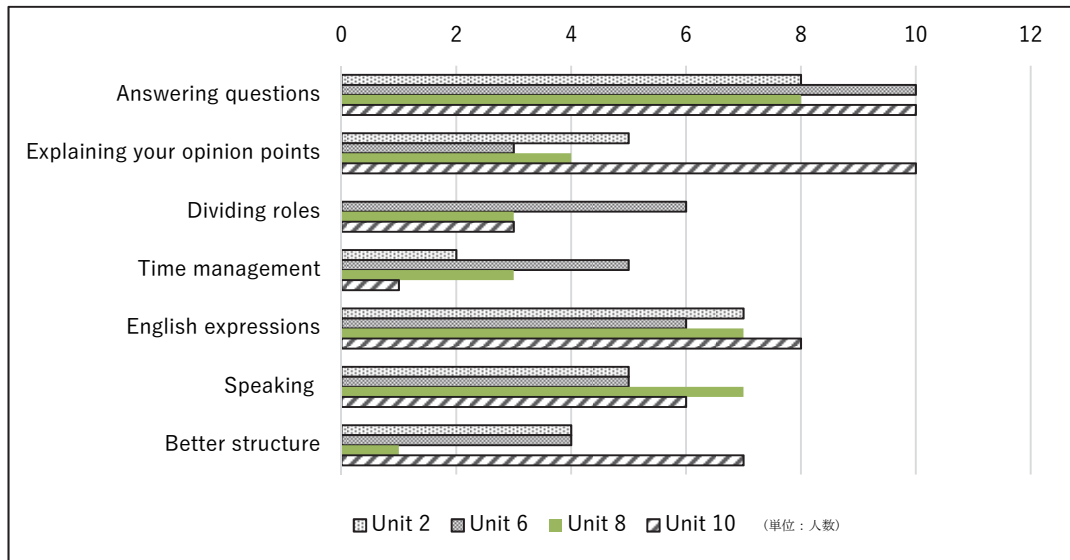


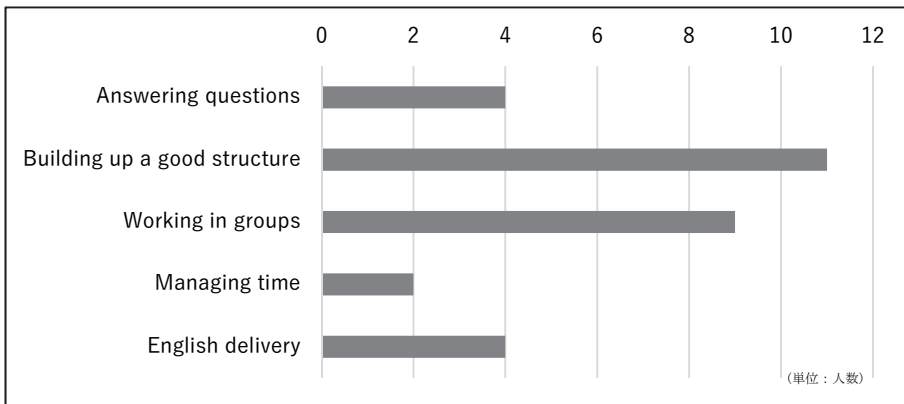
図 5 が示しているように、毎回のアンケートで次回は質疑に対する応答をうまくやりたいと思っている学生が多かった。ジャッジからの質問には即興で答える質問があるため、満足のいくように答えられず次はうまくやりたいと思う学生が多く、以下のようにコメントにも多く表れていた。「上手く答えられなかったので次の発表では Q and A で自分の意見を言えるようになりたいです」(Unit 2)「質問の答え方はすこし簡易的な答え方になってしまったのもう少し対応力を上げたいと思いました」(Unit 8)「質問に対して答えは言えたが、もう少し情報を入れて答えたかった」(Unit 10)「最後のジャッジからの質問に速やかに理解が追い付かなかったので答えるまで少し時間がかかったりしたことは改善する余地があるかなと思いました」(Unit 12) また、「英語表現」に関して次回はよりうまくやりたいと思う学生も多かった。コメントにも「次に (パネル) ディベートをする時は、もっと分かりやすい英語を使っていきたい」(Unit 8)、「論理的な意見を日本語では考えることができるけどそれを英語で発することができないのでそのトレーニングをしっかりとしていきたい」(Unit 6) といったものが見られた。

## 7. 観察された学生の変化と考察

ここでは、本活動の目的をアンケートの質問 6 の「すべてのパネルディベートを通して伸びたと思われるスキルは何か」(What skills do you think have been improved through all the Panel Debates?) の結果 (図 6) と学生のコメントに照らし合わせて考察していく。回答の選択肢は、質問回答力 (Answering questions)、良い論理構成の構築力 (Building up a good structure)、グループワーク力 (Working in groups)、時間管理力 (Managing time)、英語の話しぶり・話し方のスキル (English delivery) とした。

図 6

アンケート結果 質問 6 (What skills do you think have been improved through all the Panel Debates?)



量的には、良い論理構成力がついたという声が多く、ついでグループワークがうまくできるようになったという声が多かった。質疑応答力、英語の話しぶり・話し方のスキルはそれらに続くものであった。

本活動の目的に上げた論理構成力の育成という点では、主張構成 (Opening → Opinion → Reasons → Examples → Conclusion) が「Panel Debate」活動を通じて明確になったと思われる。主張構成の中でもオープニングについては、毎回のアンケートで「オープニングのアイデアと話し方に面白みがなかった自覚があるので、次はもう少し工夫できるようにします」(Unit 8)、「聴衆を引きつけられるようなオープニングにするのが難しかったです」(Unit 12) という工夫の必要を感じた声があったものの、全体の構成としては「プレゼン構成も回数を重ねることでしっかり枠組みを作ることが出来るようになったように感じた」というコメントにあるように力がついたと思った学生が多かったと思われる。

アンケートコメントからは、学期中の Panel Debate を楽しんで行ったという声が圧倒的に多く聞かれた。その多くはグループワークについて述べたもので、「班で協力しながらの活動は楽しいものでした。他の人たちのプレゼンなども刺激になることも多く学びあるクラスだった」、「他のグループから学べることも多くあり、楽しかった」という声があった。多角的な思考を促す生産的なグループワーク活動という目的は果たせていたと思われる。

「英語の話しぶり・話し方のスキル」については、緊張したが回を重ねるごとに人前で話すことに慣れた学生も多く、結果として英語の話しぶり・話し方のスキル習得につながったと思われる。学生のコメントでは「前をむいて話せるようになった」、「ジェスチャーをするようになった」という話しぶり・話し方に関する変化だけでなく、「人前で英語を話す力が上がったと思う。また、英語の表現もうまくなったと考える」、「英語での発表が段々と詰まらずいえるようになってきて成長を感じました」というプレゼンテーション力の伸びを感じた学生がいた。また、「聞いてもらう人に何をしたら楽しく聞いてもらえるかを考えることができるようになった」というコメントにあるように、学生がより聴衆を意識して発表するようになったことがわかる。

質問回答力については、6.1 で述べたようにいくつかの質疑応答がその場で即興で行われるため毎回のアンケートでは「難しかった」項目にあげられることが多く、また毎回のアンケートコメントでも Q&A セッションは難しいという声が多く見られた。しかし、最後の学期中の Panel Debate すべてを振り返っての感想の中には「苦手なものでもなんとか伝えようとするのがとてもいい刺激になった」という声もあり、課題は感じるものなんとか対応をしていたことが窺える。

時間管理力の向上について伸びを自覚した学生は量的には少なかったが、「タイムマネジメントがうまくなったと思う。」というコメントもあり、時間管理に関する学生への意識づけはできたと思われる。

## 8. 課題と今後の展望

毎回のトピックはその前週に教科書で取り上げた内容を絡ませており、その難易度に差があることは否めず、学生の声にも「今日のテーマ（トピック）は難しかった」や「今回の内容は比較的やりやすかった」というものがあつた。今後はなるべく学生にとって難易度に差がないようにしていく必要があると思われる。それに加え、今後は AI を活用して自分たちの意見構築を行う学生が増えると思われ、AI 学習ではカバーしづらい即興性・英語の話しぶり・話し方のスキルを鍛えるというためにも、より活発な質疑応答・聴衆をより意識した発表が行われるようなしかけ作りを行う必要がある。また、ジャッジが掲げる審査ポイントに対しての学生の反応についても深く掘り下げて調査をしていきたい。

## 9. おわりに

本活動は、学生の論理的思考力・即興力・英語表現力・生産的なグループワーク・時間活用能力の育成に効果的な実践であることが確認された。学生は学期中の「Panel Debate」活動を通じて自らの成長を実感し、グループで協力して課題に取り組む力も身につけた。今後は、さらに質の高いプレゼンテーション・質疑応答のやりとりを目指し、形式の改善と発展を図っていくことが期待される。

## 注

- 1 阪神間の私立大学での実践
- 2 学生によるアンケートコメントに「スキット」と出てくるが、これは「Panel Debate」実施回とは別の回の授業内で学生によるスキット作成とそのパフォーマンスを行ったことから、「Panel Debate」での発表時にスキットを取り入れても構わないと教員が伝え、何組かのグループはスキットパフォーマンスを取り入れていたという経緯によるものである。

## 参考文献

- 小林生夫. (編集主幹) (2008). 『応用言語学辞典』 東京：研究社
- 須部宗生. (2014). 『「ビブリオバトル」と『ディベート』を活用した大学生のコミュニケーション力・理論思考力の育成の試み』 『静岡産業大学論集』第 20 巻 1 号 (pp.87-101)
- 中川智皓. (2017). 『授業でできる即興型英語ディベート』 大阪公立大学 (堺市中区学園

町 1-1) : パーラメンタリーディベート人材育成協会 (PDA)

浜野清澄. (2020). 『まったく話せない高校生が半年で話せるようになり 1 年で議論できるようになる英語習得法』 東京 : 実務教育出版社

藤森千博. (2012). 「ディベート形式による教育実践報告～『社内英語公用語化』について～」『21 世紀教育フォーラム』 第 7 号 (pp.69-76)

松本茂. (1985). 「時事英語教育におけるディベートの導入」『時事英語研究』 1985 巻 24 号 (pp.103-113)

松本道弘. (2010). 『図解ディベート入門』 東京 : 中経出版

与那覇恵子. (2005). 「ディベートを英語教育に活かす」 『名桜大学総合研究』 第 7 号 (pp.63-69)

Davis, M. (2016). 「科学英語力の育成 : 科学内容ディベート活動の指導」『科学と教育』 64 巻 11 号 (pp.544-547)

Marsh, R. (2020). A Moot Point: How Group Debate Can Engage and Motivate Japanese University English Students. 玉川大学 *Center for EFL Journal Vol. 6.* 43-54.

Sagliano, J. (1996). Focusing on Debate to Develop Language Skills in English as a Foreign Language (EFL) Courses in College. *Comparative culture, the journal of Miyazaki International College Vol. 2.* 104-114.

教科書

Solórzano, H. & Frazier L. (2017). *Contemporary Topics1 Fourth Edition.* Hoboken, NJ: Pearson

付属資料 1
--------

Panel Debate 毎回の選択アンケート項目と選択肢

1. What was the hard part of the panel debate today? (Multiple answers)
  - a) Time management
  - b) Q&A session
  - c) English expressions
  - d) Dividing roles among members
  - e) Building up your opinions with reasons and examples
  - f) Coming up with an idea for a good opening
2. What was the interesting part of the panel debate today? (Multiple answers)
  - a) Thrills of excitement about the time management
  - b) Getting knowledge about the topic you worked on
  - c) Other groups' presentation
  - d) Group work
  - e) Q&A session
  - f) Improvement of your English skills
3. What did you learn from the panel debate today? (Multiple answers)
  - a) How to answer questions well
  - b) How to explain your opinion points well
  - c) Ideas from other groups
  - d) How to divide roles
  - e) Time management
  - f) How to speak well at presentation in English
  - g) Importance of having a good opening
- \*4. What are the things you learned in the previous Panel Debate and did today?
  - a) Answering questions
  - b) Dividing roles
  - c) Time management
  - d) English expressions (Better grammar & vocabulary, easier to understand etc.)
  - e) Speaking skill (louder, more slowly etc.)
  - f) Better structure (Better opening, reasons, examples, conclusion)
  - g) How to judge
- \*\*5. What do you want to do better next time? (Multiple answers)
  - a) Answering questions
  - b) Explaining your opinion points (Better reasons, better examples etc.)
  - c) Dividing roles
  - d) Time management
  - e) English expressions (Better grammar & vocabulary, easier to understand etc.)
  - f) Speaking (louder, more slowly etc.)
  - g) Better structure (Better opening, reasons, examples, conclusion)
- \*\*\*6. What skills do you think have been improved through all the Panel Debates? (Multiple answers)
  - a) Answering questions
  - b) Building up a good structure (Good opening, reasons, examples, conclusion)
  - c) Working in groups
  - d) Managing time
  - e) English delivery (English expressions, speaking, gestures etc.)

\*4 は 1 回目では質問なし

\*\*5 は最終回では質問なし

\*\*\*6 は最終回のみ質問事項

付属資料 2

教員による評価ルーブリック (10 点満点)

〈意見発表グループ用〉

	3	2	1	
Opinions	Topic Question に正確に、また論理的に答えている。主張が明確に述べられ、それをサポートする理由が的確な例を伴って述べられている。	Topic Question にほぼ正確に答えている。論理性に関して、若干問題がある。主張は明確だが、それをサポートする理由や例に若干整合性に欠ける部分がある。	Topic Question にあまり正確に答えていない。論理性に関して問題がある。主張、それをサポートする理由や例が整合性に欠けている。	
Performances	オープニングから十分に惹きつけられ、クロージングのまとめも的確で、全体の流れがスムーズである。音声面のデリバリーもわかりやすく、全体的に聴衆を意識したものとなっている。	全体の流れがスムーズであるが、オープニングやクロージングにインパクトが小さい。音声面のデリバリーで、若干わかりにくさがある。聴衆へのアピールが若干小さい。	クロージング部分で結論がないなど、全体の流れにスムーズさに欠ける。音声が開きづらく、内容が伝わっていない。聴衆へのアピールもない。	
Handling questions	ジャッジからの質問に的確にまた早く反応できている。単語単位ではなく、文章で対応できている。	ジャッジからの質問に反応できているが、若干時間がかかっている。質問と答えがマッチしていない部分が若干ある。文章で対応している部分もあるが、単語のみで対応している部分もある。	ジャッジからの質問への反応にかなり時間がかかっている。質問と答えがマッチしていない。ほぼ単語のみで対応している。	
Participation	2 グループメンバーが全員ほぼ均等に参加している。メンバー同士で補い合うなどチームワークが良い。	1 グループメンバーが均等に参加していない。メンバー間での補い合いがうまくできていない。		

〈ジャッジ用〉

	3	2	1	
Judging	評価ポイントとマッチしたジャッジができている。なぜ winner かの説明が論理的にできている。	評価ポイントと若干ずれたジャッジをしている。なぜ winner かの説明が若干論理性に欠ける。	評価ポイントかなりずれたジャッジをしている。なぜ winner かの説明がかなり論理性に欠ける。	
Handling questions	質問が正確かつ的確である。質問文がわかりやすく、かつ文法的にも正しい。質問の難易度がグループ間で同程度である。	質問が若干正確性に欠け、また質問の意図が若干わかりにくい。質問文に文法的な間違いが若干ある。質問の難易度がグループ間で若干差がある。	質問がかなり正確性に欠け、また質問の意図がわかりにくい。質問文に文法的な間違いがある。質問の難易度がグループ間で差がある。	
MC	MC としてスムーズに展開できている。Time management もしっかりできている。	MC としての展開に若干スムーズさが欠ける。Time management に若干問題がある。	MC として全くスムーズに展開できていない。Time management に大きな問題がある。	
Participation	2 グループメンバーが全員ほぼ均等に参加している。メンバー同士で補い合うなどチームワークが良い。	1 グループメンバーが均等に参加していない。メンバー間での補い合いがうまくできていない。		

